

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270902693		
法人名	(医)寛麗会		
事業所名	グループホームうららか船橋		
所在地	千葉県船橋市金杉9-8-22		
自己評価作成日	平成29年10月12日	評価結果市町村受理日	平成30年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成29年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念を下に、ご利用者様の尊厳を尊重し、自立を促しながら共に楽しく生活していくことを目指し、ケアに工夫や配慮をしている。センター方式を活用しており、ご利用者様ひとりひとりの性格や生活歴を考慮し、能力を最大限に活かせるよう要望や訴えを傾聴しながら、ご利用者様主体のケアを心掛けている。月間報告等でご家族にご利用者様の様子を伝え、ご利用者様・ご家族・職員間での協力の下、ホームを作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いや希望を把握し、ちょっとした表情や所作の変化を捉えて、職員が声かけをすることにより、本人の意欲を高め、利用者が自ら行動できるような支援に取り組んでいる。ホーム内は利用者の笑顔の写真や利用者力作の塗り絵・習字などの作品が展示され、利用者は居間に集まり思い思いに過ごしている。ホームは利用者の日々の暮らしぶりを家族へ伝えることに力を入れ、利用者ごとに生活や健康状態を書いたお便りや行事の顔写真を定期的に家族へ送り、利用者の暮らしぶりが良くわかると好評である。家族アンケートでも、「相談しやすい、大変行きやすい、職員は生き生きとしている」など高い評価を受けており、全職員で「利用者・家族・職員みんなが笑って過ごせる家族的なホームづくり」に着実に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に基本理念を掲示しており、職員間での共有を図っている。 ご利用者様への声掛けや関わり方も基本理念に基づき、残存能力を活かす取り組みを行っている。	利用者の要望を大切にするという4つの基本理念を玄関に掲示し、課題が発生した都度、職員で話し合い共有している。表情や所作の変化を捉え、タイミングの良い声掛けで、利用者が自ら意欲をもって、行動できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板や地域のゴミ拾い、夏祭りに参加している。 行事の際、近隣住民に参加を促している。 また散歩の際に声を掛け合う関係作りが出来ている。	自治会主催の夏祭りは職員と一緒に参加し、自治会が用意した席で楽しんでいる。 ホームで行う花火大会へ近隣住民に声かけしたり、散歩時には近くで農作業中の住民と挨拶を交わすなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長に運営推進会議の参加を依頼している。行事・ゴミ拾い・夏祭りの際、関わりを持っていただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。 ホームの課題について、報告・相談。運営状況も報告している。 他ホームと運営推進会議に参加し合い、情報の交換を行っている。	在宅介護支援センターや他のグループホーム管理者、家族代表者等の参加を得て年6回の開催である。開催の都度ホーム状況や課題を説明し、事故が発生した場合は、原因や再発防止策を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内を行っている(出席はなし) 電話やメールでのやり取りを行っている。	市の担当部門の運営推進会議への参加はないが、グループホーム連絡会等で交流している。市の介護保険課、高齢者福祉課、指導監査課等を訪問し相談したり、メール等で確認・相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体拘束を行う場合、事前にご家族に同意を得たうえで実施する。また身体拘束が継続しないようミーティングで再検討する。	身体拘束しない方針で取り組み、ミーティング時に全員で確認、外部研修参加の職員が伝達講習を行い、周知徹底している。一時的に実施せざるを得ない場合は目的や内容を事前に家族へ説明し、同意を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、各職員に周知徹底している。 またミーティング時に共有している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用しているご利用者様があり、必要に応じ活用を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明ができるようご家族と相談し、時間を作っていたい。またご自宅を訪問し説明を行う場合もある。不安や疑問、トラブルにならないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 面会時や電話・メール等個々に合わせたコミュニケーション方法を取り、ご意見やご要望を伺えるよう努めている。	うらか通信や行事参加時の利用者の写真や家族への手紙で利用者の暮らしぶりを知らせ、家族とのコミュニケーションを深めている。家族来訪時や、電話などで要望や意見を確認し、運営に反映している。意見箱は設置しているが特に意見は無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを実施し意見交換を行っている。	朝夕の申し送りやユニットミーティングを毎月開催し、施設長は両方に参加、都度話し合いを行い意見を聞いている。参加できない職員は議事録で確認し、重要な問題等は管理者が法人代表に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤は年1回の評価がある。 常勤は決まった評価の場はないが、随時管理者より代表に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会への参加を推奨している。 法人内での研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	随時、代表者に参加の許可を得て交流会に参加している。またグループホーム連絡会や外部の研修等の参加により交流の機会を作り、情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と事前面談を実施し話す機会を設けている。日程が合えばホームの見学もしていただく。ご家族にも情報収集についてはご協力いただき、ニーズを抽出できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際に聞き取りを行いご家族の要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前介護計画を作成し、契約時にご家族とケアの方針・危険(リスク)を確認する場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で自立支援に取り組み、ご本人のペースを尊重できるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話・メール・月間報告にて様子を報告し、状態の変化については密に話し合っている。ご家族と職員が共に支えていることを随時説明し協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前までの情報やご本人の要望を確認し可能な限り対応できるよう努めている。	馴染みの方の来訪は積極的に受け入れている。手紙を出すことを支援したり、面会の少ない家族には、職員が電話して近況報告をし訪問を促している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やそれぞれの相性に応じて座席を検討したり、場合により居室で個別対応する等、円滑な人間関係が保てるよう声掛けや対応に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者様に面会に行ったり、都度ご家族に連絡をすることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し、ご本人・ご家族からの情報を下に入所後も馴染みの生活が継続できるよう検討している。	自分から表現できない利用者に対しては、パーソン・センタード・ケア方式を利用し、本人の生活歴や嗜好、家族の思いなどを把握している。日々の生活行動から本人の求めるものを読み取るよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用し、ご本人・ご家族からの情報を下に入所後も馴染みの生活が継続できるよう検討している。前担当ケアマネジャーからの情報も提供していただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の活用と、それぞれのできること、できないことをシートにまとめミーティング時に職員間で共有している。介入時、できることはしていただくような声掛けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員がケア内容についてよく検討したうえで作成している。 ご家族ともケアの内容について話し合い場合同様により再検討を行う。	職員が一人ひとりの課題を把握し、家族や関係者の意見を聞き、フロア・ミーティング、全体会議で検討し、介護計画に繋げている。計画に従い支援した内容をモニタリングし、課題解決が難しい場合は、計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は介護記録に残しており、ご本人の発した言葉や思い、ケアの方法についてミーティング・申し送り時に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら、ご本人のご希望を可能な限り実現できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力を得ながら、ご本人ご希望を可能な限り実現できるよう対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の往診が2回/月あり。希望の方は以前からのかかりつけの医療機関に受診している。その他の通院に関して、場合により通院介助を行っている。	利用開始にあたり希望するかかりつけ医を確認している。ホームのかかりつけ医の往診は月2回。口腔ケアに力を注ぎ訪問歯科を利用している。利用者希望の病院や専門医への通院は、家族対応を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師は配置していない。提携医療機関の往診時に相談。急変時には電話連絡を行い、指示を仰いでいる。また、ホーム内で可能な範囲の医療行為についても随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族と密に連絡を取り合い、病院での病状や手術の説明、注意事項の説明等も可能な限り同席するようにしている。入退院時には病院関係者と情報交換を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明しており、状況の変化に応じて個別に相談を行っている。また主治医と連携を取り、今後についてもご家族と共に話し合っている。	入居時の説明で「看取りをしない」方針を伝え、同意を得ている。重度化の兆しが見られたら、利用者や家族等と話し合い、住み慣れた当ホームで出来るだけ長く過せるように支援しているが、状況により他施設へ移られる方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練の際に救急救命法訓練を実施。ホームにはAEDを設置している。緊急時対応マニュアルに基づき、ミーティング時に確認を行っている。市主催の普通救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	フロアごとに1回/月避難訓練・消防訓練・救急救命法を実施している。町会長を通して緊急時の協力を依頼している。	倉庫に保管されている災害備蓄用の食料品は、賞味期限を確認し入れ替えている。月1回、利用者参加の避難訓練、火元特定の消防訓練を行い、備蓄用の食料品も試食している。	ホームでの消防訓練への地域住民の参加や、災害時における協力について、引き続き検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛け・対応の工夫や配慮を行っている。	男女共に名字で呼び、希望者は名前を呼ぶこともある。1階のトイレは共有だが、2階は利用者の希望で男女別に分けられている。車椅子利用者のトイレにはカーテンが掛けられ、プライバシーへの配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者様自らが選択をする機会を増やせるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方はご本人に確認しながら決めている。 業務を細かく時間で決めず、ご利用者様の生活のペースに合わせて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けや希望に沿って理美容に出掛けたり、入浴前に散髪を行っている。 入浴、更衣の際、ご本人に洋服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは可能な限り一緒に行うようにしている。 咀嚼・嚥下能力や好き嫌いを把握し、個々に合わせて提供している。	食材及び献立は食材会社から調達している。誕生会等の日はホームで献立を考えている。食前に口腔体操を行ない、「食事がおいしい」との利用者の声が聞かれ、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を記録している。 個々に合わせた食事形態で提供し、場合により介助を行っている。 食事量が不安定な方は補食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、必要に応じ介助を行っている。 訪問歯科往診時、歯科医に相談し指導を受けており、研修も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、トイレ誘導やポータブルトイレ、パットや下着の使い分けを行い、自立を目指している。必要以上にパットを使用しないようにしている。	日中は、利用者の仕草や傾向を把握し、誘導して全員トイレで排泄をしている。夜間介助の方や転倒の恐れのある方の動きを赤外線センサーで察知し、安全な誘導を行い事故防止に努めている。夜間のオムツ利用者は1割に減少している。		
0		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し服薬の調整を行っている。日々、適度な運動を促し必要に応じ乳製品の摂取を促し便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は制限せず、なるべくご本人の生活パターンに合わせた時間帯で入浴できるよう声掛けを行っている。拒否がある場合は無理強いせず、職員を替える、時間を空ける等の工夫をしている。	生活パターンや希望の時間帯に合った入浴支援がなされている。同性で介助し、入浴剤などで雰囲気や和ませ、個浴でゆっくりと寛げる時間が設けられている。入浴を拒む利用者には、タイミングを見て上手に声掛けをして、誘導している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合った生活が送れるよう支援し、出来る限り日中の活動を促している。眠れない時は話を傾聴し、温かい飲み物を提供している。また不眠が続くようであれば主治医に相談する。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時の記録を共有し、薬情・個人ファイルにて再確認する。分薬・配薬は職員二人以上で確認し誤薬のないよう努めている。また、体調の変化については申し送りにて職員間で共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格や得意・不得意を把握し、レクリエーションや家事手伝いを促している。天気の良い日は近隣の散歩やドライブ・買い物に出掛け気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、それぞれの希望に応じて外出支援ができるよう支援している。ご家族の協力により外出や外食、選挙投票に行かれることもある。	その日の体調に合わせて外出支援が行われている。職員と一緒に周辺を散歩したり、自動車遠出をしたり、月に数回、ファミリーレストランで食事をしている。家族と外出する場合は、事前に利用者本人の体調や生活情報を家族へ丁寧に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(ACOPA記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預り金として職員が金銭を管理している。 外出・買物時にご本人に精算していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があれば電話を使用していただき電話をすることもある。 またご家族宛ての手紙を書いていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや照明等で明るさを調整している。 個々に合わせた音量で声掛けを行うよう配慮している。	居間は暑さ寒さに配慮しながら、レースのカーテンを出来るだけ開け、戸外の様子を感じられるようにしている。居間を好む利用者が殆どで、喜んで居室より居間に出てきて、自分好みの席を大事にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル等で自由に寛げるよう配慮している。 座席は相性を考慮しており、場合により居室にて個別対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、使い慣れた馴染みの家具や生活用品をお持ちいただき、自分だけの空間を作っていただくよう説明している。 持ち物については随時相談を行っている。	居室入口の表札は、漢字と利用者自身が選んだ好みの目印で表示されている。クローゼットと洗面台が設置され、それ以外は本人の希望でレイアウトされ、職員の協力で整理整頓がされている。自分の部屋として安心して寛げる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの能力を活かせるよう、出来ること出来ないことを把握し、ミーティングで必要以上の介助は行わないよう情報を共有している。		